



他者を大切にする②

他者を大切にすることは、態度とともに言葉づかいに表れます。

今は、パソコンやスマホを使えば、すぐに調べたいことを検索できます。外出先でもスマホがあれば調べることができます。パソコンやスマホを使って、調べたいことがみつかったとき、パソコンやスマホにお礼を言う人はいないでしょう。逆に「教えてくれてありがとう」などと言っている人がいたら、それはそれで問題です。



これらのことが原因なのか、人にもものを尋ねるときの態度がおかしい人が増えているとのこと。人にもものを尋ねるとしたら、まず「すみません、ちょっとお聞きしたいのですが」という言葉が必要です。また、教えてもらったのなら、感謝の言葉が必要です。もちろん頭を下げてお願いをし、態度でお礼の気持ちを表すことも当たり前です。

ある駅員さんの話のコラムを見つけました。

最近、「〇〇はどこ？」と、いきなり言ってくる人が多いそうだ。
その駅員は、「仕事ですからお教えしますが、ムツとしますよ」と苦笑いしていた。
一人や二人ではないそうだ。
一日に何十人もそんな人ばかりでは、駅員さんも苛立って当然だろう。
しかも、聞かれたことに答えても、「ありがとう」の言葉がないとのことだった。



前号でも書きましたが、店員などのサービス業の人に、上から目線で口をきく人がいます。「お客様は神様」という言葉が勝手に独り歩きしているように思います。日本人の接客態度は世界一といわれますが、してもらって当然と、その上にあぐらをかいてしまっているようにも感じます。

では、子どもたちの言葉づかいはとていまして…

- 「校長先生、〇〇ですか？」と言われたら、「それは、△△だよ」という会話になります。
- 「校長先生、〇〇なの？」と言われても、「なぜ“タメロ”なんだ？」という感情はわきません。
- もし、「おい、校長、〇〇か？」と言われたら、「何だと！」と怒りの感情が先にわくと感じます。

もちろん、学年や発達段階において、ていねい語や敬語が使えるようになる必要はあります。中学年くらいからは、教職員に対して丁寧語をつかえるようにしてほしいものです。教職員に「です」「ます」をつかえることが、将来、目上の人につかえることにつながります。高学年生や児童会本部の子が、校長室にくるときに、とても丁寧な言葉づかいでやってくるのを見ると「ホッ」とします。校長室の手前でシミュレーションをしている声が先に漏れて聞こえてくるときもありますが…。



このところ、2年生が休み時間に校長室に来て、いろいろ話をしてくれました。2年生ですのほほ“タメロ”です。そんな中で「校長先生、□□ですか？」と話しかけてくれた子には「いい言葉づかいだね」と言ってあげています。

他人の痛みがわかる人

Yさん（71歳）は、56歳のとき、低血糖症で意識を失い、マンションの5階から転落した。気が付くとベッドの上にあった。

一命はとりとめたが脊髄損傷で下半身まひの重度障害を負った。

2年の入院生活を終え退院したが、車いすの生活になった。

AT車限定の自動車運転免許も取得し、健常者と変わらぬ生活を送っているが、ときに心ない人の言葉に傷つくこともある。

スーパーで近くにいた買い物客に、棚の商品を取ってもらおうと頼んだとき、「なぜ一人で来るんだ。介助者を連れて来い。」と怒鳴られた。

もちろん、悪いことばかりではない。

買い物を済ませて自宅の集合住宅の駐車場まで戻って来たときのことだ。

車いすに乗り換え、ひざの上に大きな買い物袋を乗せてエレベーターに向かい始めた。

そのとき突然、5歳くらいの女の子が歩み寄って来て「おじちゃん押したげる」と言い、スロープを押してくれたのだ。

大人でも相当の力がある。

幼い子どものこと、重かったろう。

「このときほど車いすが軽やかに感じたことはありません。」とYさん。

スーパーに買い物に出掛けたときの話。

アルバイトの女子高生が、レジで声を掛けてくれた。

「雨が強くなってきましたよ。大変でしょう。ぬれますから送りますよ。」と。

いつも一人で車を運転して来ていることを知ってくれたのだ。

でも、ほかのお客さんが並んでいたので「ありがとう。」とだけ言って遠慮した。

ずぶぬれになることを覚悟して車のところまで車いすを動かし始める。

ふと気付くと、体に雨が当たらない。

振り向くと見知らぬ人が、後ろから傘を差し掛けてくれていたのだ。

レジのところで見かけた50歳くらいの女性だった。

おそらく、レジの女子高校生との会話を聞いてくれたのだろう。

「ありがとうございます。奥さんの方こそぬれてしまいますよ。」

Yさんに差し掛けるため、本人が傘からはみ出していた。

